

令和5年12月26日

於

府中市役所

令和5年度第2回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策経営部政策課

令和5年度第2回府中市総合教育会議 会議録

1 開 会 令和5年12月26日(火)

午後1時30分

閉 会 午後2時25分

2 出席者

市 長 高 野 律 雄 (議長)

教育長 酒 井 泰

委 員 日 野 佳 昭

委 員 平 原 保

委 員 増 淵 達 夫

委 員 山 下 和 則

3 欠席委員

なし

4 教育委員会事務局出席者

文化スポーツ部長

佐 藤 直 人

文化生涯学習課長

鈴 木 正 憲

教育部長

矢ヶ崎 幸 夫

教育部副参事兼指導室長

隅 田 登志意

教育総務課長

田 中 啓 信

指導室教育支援担当主幹

菅 原 尚 志

指導室教育指導担当主幹

濱 田 昌 也

指導室長補佐

南 學 進

5 市長部局出席者

政策経営部長

石 橋 純 一

政策経営部次長兼政策課長

大 井 孝 夫

政策課長補佐

高 橋 翔

政策課主査

上 地 翔

政策課主任

兵 動 早 菜

6 議事内容

(1) 協議題1 府中市教育委員会における令和6年度施策展開の方向性について

(2) 協議題2 市立小中学校における学力・体力向上施策の充実について

7 傍聴者の数

2名

8 発言内容

○市長 それでは、只今より、令和5年度第2回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長並びに教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝を申し上げます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本日は、協議題1「府中市教育委員会における令和6年度施策展開の方向性について」、協議題2「市立小中学校における学力・体力向上施策の充実について」の2件について、ご協議をお願いいたします。皆様に活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携を更に深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

◎傍聴許可

○市長 協議題に入ります前に、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされており、本日傍聴希望の方がお見えですので、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

○教育長、教育委員 異議なし

○市長 それでは、傍聴を認めます。

◎協議題1 府中市教育委員会における令和6年度施策展開の方向性について

○市長 それでは会議次第に沿って議事を進めてまいります。はじめに、協議題1「府中市教育委員会における令和6年度施策展開の方向性について」です。

9月20日に開催した第1回総合教育会議において、「令和6年度の政策立案の基本的な考え方」をお示しいたしましたが、令和6年度は、第7次府中市総合計画前期基本計画の3年目となり、各取組を加速させるとともに、令和8年度を始期とする、後期基本計画の策定に向けた検討が始まる重要な年度となります。あわせて、令和6年度は、市制施行70周年を迎える年度でもあり、この節目を契機に、より一層このまちを盛り上げてまいりたいと考えております。また、30年後には100周年を迎えることにも思いを巡らせ、様々な社会課題や多様化する市民ニーズに的確に対応し、魅力的なまちであり続けられるよう、市政運営に取り組むこととしております。

この方針を基に、教育部、文化スポーツ部の両部におきましても、来年度の部の運営方針を策定いただき、新規事業及びレベルアップ事業等の提案もいただきました。本日は教育委員会における来年度の施策展開の方向性を、改めてご説明いただきたいと思います。

教育長それではご説明をお願いいたします。

○教育長 それでは私からご説明申し上げます。

前回、9月20日（水）の総合教育会議におきましては、高野市長から令和6年度市政運営と予算編成の基本方針について、お示しいただいたところですので。これを受けまして、本市教育委員会の令和6年度における施策展開の方向性を協議いたしましたので、本日はその内容について、教育委員会を代表して私より、市長にお知らせしたいと思います。

本市教育委員会では、知・徳・体の調和が取れ、これからの社会を主体的・創造的によりよく生きる力を身に付け、府中の将来を支える児童・生徒を育むべく、学校・家庭・地域の強固な連携のもと、学校教育の充実に努めています。

また、市民のスポーツ活動の支援や生涯にわたる学習活動の推進、ふるさと府中の歴史・文化をいかしたまちづくりなど、社会教育の振興にも努めています。

令和6年度においては、これまでの取組を更に充実させるとともに、義務教育9年間の継続的・系統的な取組により、児童・生徒が課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに、他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力を育成することができるよう、次のとおり施策を展開してまいります。

はじめに、学校教育関係でございますが、学校では、全ての児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、主体的に学習に取り組む態度等を育成します。また、教育課程に「世界とつながる英語Enjoy Week」を位置付けるほか、引き続き「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、伝統芸能や稲作体験など、様々な体験的な学習活動の充実に努めます。

健全育成に向けては、喫緊の課題である不登校やいじめの未然防止・早期対応など、学習面や生活面で課題を抱える児童・生徒への支援を充実します。不登校対応については、学校が児童・生徒の居場所となるよう、全校に設置したサポートルームを活用するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携し、個々の状況に応じた適切な支援を行います。いじめへの対応については、府中市いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめの未然防止を徹底するとともに、把握した全てのいじめに対して、確実かつ適切に対応します。

I C T活用の推進については、タブレット端末を活用した個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実を目指すとともに、G I G Aスクール構想第2期に向けた準備を進めます。

特別支援教育については、障害のある子どもと障害のない子どもの交流及び共同学習の充実を図るなど指導の充実と、I C T機器の活用や支援員の配置等により、多様な学びの場の充実に努めます。また、子ども発達支援センターの開設を契機として、ライフステージが変化しても途切れることのない、教育と福祉が一体となった相談及び支援を提供してまいります。

不登校特例校の設置及び教育センターの移転については、令和7年度の供用開始に向け、引き続き準備を進めてまいります。

学校施設の老朽化対策については、現在、改築事業を進めている府中第三小学校及び府中第六小学校において、校舎・体育館等のしゅん工を目指します。また、これまでの改築事業

で見えた課題分析や令和5年度にまとめた学校施設の適正規模・適正配置の考え方を踏まえながら、学校施設老朽化対策推進協議会での協議を進め、令和6年度中に府中市学校施設改築・長寿命化改修計画を改定します。

学校給食センターについては、引き続き、安全・安心でおいしい学校給食の提供を進めるとともに、府中産農産物の活用、栄養教諭を中心とした食育活動の推進、食物アレルギー対応方針に基づくアレルギー除去食の適切な提供、安定的な給食提供のための給食設備の保守に努めてまいります。

宿泊体験学習については、義務教育9年間を見通した宿泊体験学習の在り方に基づき、日光移動教室の実施時期を夏季休業期間中から2学期に変更するとともに、小学校第5学年の「わくわく自然教室」や、中学校第1学年の「ふれあい自然教室」、中学校第3学年の修学旅行についても、引き続き全校で実施いたします。

このほか、就学援助費等の教育関連資金の支援など、子どもたちの教育環境の充実に努めてまいります。

次に、社会教育関係でございますが、生涯学習センター定期講座や家庭教育学級など、多様な学習事業を展開するとともに、子どもたちに向けた事業に取り組みます。また、生涯学習センターの将来的な在り方についても検討を進めてまいります。

スポーツタウン府中の発展に向けて、第2次府中市スポーツ推進計画に基づき、市内を拠点に活動するトップチーム等と連携した取組を進めるとともに、東京2025デフリンピックに向けて、デフスポーツを始めとする障害者スポーツの啓発など、各種取組を進めてまいります。また、スポーツ施設については、新たな総合体育館の建設に向けた検討を進めるほか、地域体育館に空気調和設備の整備等を進め、市民が安全で快適にスポーツが行える環境整備を図ってまいります。

文化財及び関連施設については、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）第2期整備に向けた取組や都指定有形文化財内藤家住宅の保存と活用に向けた計画策定を進めます。また、馬場大門のケヤキ並木の国の天然記念物指定100周年を記念する事業を実施するとともに、ふるさと府中歴史館の機能移転の方針を取りまとめるほか、令和6年度中に改修工事が完了予定の郷土の森博物館では、引き続き各種事業を実施し、歴史と文化のまち府中のふるさとづくりに寄与してまいります。

市史編さん事業については、各時代の通史編計4巻の刊行に取り組み、完成次第、市民に広く周知するとともに、蓄積してきた資料の活用も行います。

図書館については、市民の読書意欲を高め、継続的な図書館利用を促進するため、様々な分野・種類の資料の収集に努めるとともに、レファレンスサービスやハンディキャップサービス、おはなし会、電子図書館など、様々なサービス・取組の充実に努めてまいります。また、令和6年度を計画初年度とする第5期府中市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動の更なる推進を図ります。

美術館については、作品の収集や収蔵品の管理を適切に行うとともに、市制施行70周年記念展覧会を始めとする展示活動や、市民に向けた教育普及活動を実施してまいります。

以上、本市教育委員会における次年度施策展開の方向性についてお伝えさせていただきましたが、各施策の実現や円滑な進行のためには、市長のご協力及び双方の緊密な連携が不可欠であると考えております。今後ともどうぞよろしくようお願い申し上げます。

○市長 ありがとうございます。

学校教育関係においては、子どもたちが主体的に学習に取り組む態度等を育成するとともに、健全育成に向けて、喫緊の課題である不登校やいじめの未然防止・早期対応など、子どもたちの支援を充実するとお話しいただきました。不登校やいじめについては、この総合教育会議の場でも議論を重ねてきたところであり、全校にサポートルームを設置することや、府中市教育委員会いじめ問題対策委員会を置くといった取組等により、適切にご対応いただいているところがございます。不登校の原因やいじめの発生は、教育現場に限らず、日常生活の中に潜んでいることもあり、我々市長部局としても対応していかなければならない課題であると捉えておりますので、引き続き、連携して取組を進めたいと考えております。

また、特別支援教育につきましては、子ども発達支援センターの開設を契機に、発達や学校生活等に課題を抱える子どもやご家族に対し、ライフステージが変化しても途切れることのない、教育と福祉が一体となった相談及び支援の提供に努めていただけたとお話しいただきました。センターの愛称である「はばたき」に込められた、「センターを利用する子どもたちが、未来に向かって前進し、羽ばたいてほしい」という思いが実現できるよう、共に、児童発達支援の中核施設としての機能を十分に果たしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

社会教育関係につきましては、東京2025デフリンピックに向けて、デフスポーツを始めとする障害者スポーツの啓発など、各種取組を進めていくというお話がございました。本大会は日本では初めての開催であり、また、第1回の開催から100周年を迎える記念となる大会でございますが、喜ばしいことに競技会場の一つとして、本市の総合体育館が選ばれております。これを絶好の機会と捉え、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、また、誰もが暮らしたい、誰もが暮らし続けたいまちであり続けられるよう、市長部局としても積極的に各取組に励みたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、馬場大門のケヤキ並木の国の天然記念物指定100周年を記念する事業の実施についてのお話もありました。季節に応じた葉の彩りを見せてくれる本市のシンボルであるこのケヤキ並木を、今後も将来にわたり守り継いでいきたい、そう皆さんに思っただけのような魅力的な事業の実施をお願いできればと思います。

来年度予算につきましては、年明けの政策経営会議を経て予算案を確定してまいります。総合教育会議では、予算額が確定した次回開催の際にご報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

このことについては、以上とさせていただきます。

◎協議題2 市立小中学校における学力・体力向上施策の充実について

○市長 続きまして、協議題2「市立小中学校における学力・体力向上施策の充実について」です。子どもたちの健全育成に当たっては、自身の能力を発揮させ、将来にわたり生き抜く力につながる学力、そして健康な体を維持させるための体力が重要な要素になると捉えております。本日は、子どもたちの学力・体力の現状、そして向上に向けた取組についてご説明いただき、情報の共有と意見交換をさせていただきたいと思っております。

それでは、再び教育長からご説明をお願いいたします。

○教育長 それでは府中市の学力及び体力の現状と取組についてご説明いたします。はじめに、ご用意いたしました資料1の府中市の学力向上に向けた取組をご覧ください。毎年4月に小学校6年生、中学校3年生の全児童・生徒を対象とした国の学力・学習状況調査を実施しております。その結果について、第3次府中市学校教育プランの策定時と比べて説明させていただきます。

府中市の児童・生徒の学力は、概ね全国や東京都と比較しても緩やかではありますが、上昇傾向にあります。特に小学校の国語では、教育プラン策定時の令和3年度には東京都の平均正答率を下回っておりましたが、昨年度と今年度については同レベルまで上がってきております。また、中学校においては、いずれの年度においても全ての教科で全国と東京都を上回る結果となりました。

次に(2)のデータは、正答数を多い順から4つの層に分け、それぞれの層に何%児童・生徒数があるか、東京都と比較したものになります。小学校では、教育プラン策定時の令和3年度から、国語のA及びB層の割合が増加し、算数のD層の割合が減少するなど、学力の底上げが図られているものと考えております。また、中学校における国語ではA層の割合が増加しており、数学ではA及びB層の維持、英語ではC及びD層の減少が見られるなど、学力の定着が図られているものと考えております。なお、資料には掲載しておりませんが、令和5年度では小中学校ともに基礎的な問題での無回答率が減少しており、基礎・基本の定着が図られているものと捉えております。

最後に、2の学力向上に向けた取組についてです。学力向上は、何と言っても毎日の授業の充実によって実現します。記載のとおり、学校においてはタブレット端末を積極的に活用した学習、小中学校間の連携を図った指導、家庭学習の定着に力点を置いた取組を重視しています。そして教育委員会としては、学校における授業の充実が図られるよう、様々な支援策を実施しております。次年度からは、義務教育9年間を通して育成する資質・能力を、課題を発見し課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに、他者と協働しながら合意形成を図りより良い事項を実現する力として示し、府中市立小中学校における学力向上を図る取組が進むよう努めてまいりたいと思っております。

続きまして、資料2をご覧ください。資料2で示したのが、体力向上に向けた取組でございます。

(1)は、東京都との体力合計点の平均値の比較となります。体力合計点とは、走力や持久力、投力等の種目ごとに各10点で表し、合計80点満点で示したものでございます。得

点の右に記載しておりますアルファベットは、体力合計点を学年に応じた基準で上位からA、そしてEという形で順に示したものであります。また、表の中で赤の実線で囲んでいる年度は、第3次府中市学校教育プランの策定時の令和3年度を示し、紫の枠の点線は小中学校入学時からの経年であり、その推移を示しております。教育プラン策定時の令和3年度と比較させていただきますと、中学校においては、第3学年の女子の体力合計点に低下の傾向が見られますが、総合評価では第3学年の女子のC以外はBとなっております。一定の水準は維持しております。なお、その他の学年は同程度で推移していると判断しております。次に、紫色の点線で示した経年の変化で見えていきますと、学年が上がるにつれて体力合計点は向上しており、東京都との差も小さくなっていますが、中学校の女子を除いては、いずれの学年も東京都を下回る状況となっております。また、現在、中学校3年生の男子の学年では、経年を見ても毎年東京都を下回る状態ですが、他の学年については東京都を上回っております。なお、表にはございませんが、全く運動に取り組まない生徒の割合、要するに運動する時間が0分といった生徒の割合は、残念ながら少しずつ増える傾向を示しているのが懸念材料だと思っております。

続いて、種目別の体力の特徴ですが、(2)に細かいデータで示しております。小学校では男女とも柔軟性が高く、女子の投力や高学年男女の跳躍力は東京都より高い傾向があります。その一方、握力や持久力については、下回っている学年が多くなっているのが現状でございます。また、中学校では男女とも柔軟性、投力が東京都に比べて高い傾向にあります。が、小学校と同様、握力と持久力は下回っている学年が多くなっています。

2の体力向上に向けた取組ですが、体育の授業だけではなく、日常的な運動習慣の定着に向けた取組や運動の楽しさを感じさせる機会の創出など、様々な取組を通して体力向上に加え、豊かなスポーツライフを身につけることを目指して取組を進めております。なお、一部資料にも記載がありますが、昨年度から2年間にわたり、府中第九中学校では東京都教育委員会の研究指定を受け、生徒の体力向上のための研究を行っており、その成果を市内全ての小中学校に周知していきたいと思っております。引き続き、小中学校の体力向上を目指した取組の充実を図ってまいりたいと思っております。

最後になりますが、学力向上並びに体力向上の取組を進めていくために、市からは多くの予算をつけていただいております。各学校で日々充実した教育活動が展開でき、学力並びに体力の定着を図ることができていると捉えております。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。それでは教育長からご説明いただきましたが、委員の皆さんからご意見などございましたらお伺いいたします。

○日野委員 毎年学力、体力のデータを見せていただいておりますが、大きな変化はないという印象があります。握力が毎年少し低く、学校でも手で登る運動や鉄棒などを取り入れていますが、結果はなかなか変わらないという状況です。実は、最近の子どもの学力や体力について、自分の子どもの頃と比べていろいろ意見を持っていたのですが、藤井聡太くんのようなすごい子が出てきたり、大谷翔平くんのように世界でスポーツができている子を見てい

ると、私らが何か言うというのもおこがましいといひますか、子どもたちは自分たちで成長しているような気がして、あまり意見が言えなくなつてきています。進んでる子は学びや運動について自分で力をつけてくれているだろうから、私たちの役割としては、理解度が遅れている子どもたちに、共生社会に向けた個別最適な教育をいかにして受けさせてあげるかということが大事なのかなと思つています。

運動に関しても、やはり運動する喜びとか、また今はなかなか外でボール遊びできる場所がないので、そういう場所の提供と環境づくり、そういうことに対して教育委員会として意見を持てたらと考えております。以上です。

○市長 ありがとうございます。個人的な話になりますが、握力については私もあまり得意ではなくて、握力測定をするといつも数字が低かつたですし、今も低いです。握力の練習というのはなかなか行いませんので、握力測定の結果をどのように見たらいいのかは私も少し分からないところです。

学力や体力で今まさに、将棋世界の天才と、世界的なスポーツの頂点に立つた2人が我が国の誇る2人なのかもしれませんが、学ぶ喜びと、それからスポーツをする喜び、これを知るといふことがまずは基本的な学校としての指導なのではないかなと、日野委員のおっしゃるとおりだと思ひました。

○平原委員 学力については徐々にではありますが、小学校では東京都より少し低かつた部分が近づいてきており、それから中学校では以前から上回つていましたが、それを維持・向上しつつあるといふことで、非常に望ましい傾向だと思ひています。さらに小学校では、A層という高い得点を取つている子が増えてきており、またD層が減つてきているので、この状況は喜ばしいことだと思ひます。これはきっと、子どもたちの個々に応じた学校の指導が充実していることによつて、D層にいた子がC層やB層に上がつていく傾向ができていふのだと思ひ、学校においてきめ細かい取組がされているのだろうなと感じています。

それからもう一方で、授業の充実といふ言葉がいくつも入つてきていますが、授業を充実させるといふことはどのようなことが大事なのかといふと、先生方が協働して授業を良くしていくといふことだと思ひています。個々の力に頼っているのでは、やはりベテラン教員と若手では差がついてきてしまうため、校内研究といふ取組が非常に大事だなと私は思ひます。

今年、府中第三小学校と小柳小学校の校内研究を見学しました。三小では、これまで学んだこと（既習事項）と、友達との繋がりを大事にした授業を作ろうといふことを行つています。それから小柳小では、対話的に学び合う子どもの育成を目指して、友達との繋がりを大事にした授業を作ろうといふことを行つています。両校の算数の授業を複数回見させていただきました。授業を進めていくうちに、今まで習つたことは何だったのか、だから今日は何を学ぶのかといふことを子どもが意識するようになってきたと感じています。この間、5年生のひし形の面積を求めるといふ授業を参観したのですが、長方形と正方形は4年生で習つて、5年生になるとそれを基にして平行四辺形を習ひ、そして三角形も習つて、ひし形をどうやって求めるのだろうとなつたときに、子どもたちの中でもいろいろな考え方を

していました。今までに習った長方形に直せばいいとか、それから正方形のようにすればいいとか、対角線に目を向ければいいとか、三角形にしてしまえば対角線×対角線÷2の公式に結びついていくということをお話合せて発表していて、前に習ったことを意識させるということが、このような形で子どもの力につながっていくのだなと感じました。それから、私はこう考えたけれども、友達はどう考えて、また別の友達はどう考えているということで、自分が思いつかなかったことを授業の中で発見する喜びを見出していたり、気付いた時に子どもが「あっ！」と声を出して感動したりする、そんな場面を目の当たりにし、そこに学ぶ喜びがあるのかなと思いました。

次に、「重さを比べて量ろう」という授業を参観した時のことを紹介します。長さや広さは目に見えますが、重さというのは目に見えないので、非常に難しい勉強ではあるのですが、先生が工夫して、「学校園でジャガイモを作ったので、このジャガイモと人参と玉ねぎを使ってカレーライスを作りたいが、カレーライスのパックの裏には野菜が合計1キログラムぐらい必要と書いてあり、この3つの野菜を組み合わせると1キログラムにしてみよう」という内容の授業を行っていました。3人ずつでグループを作り、はかりを使わないでどうやったら1キログラムを見つけられるだろうと子どもたちが考えていたところに、先生が牛乳パックや1Lのペットボトルを用意し、これと比べていいと声がけを行ったところ、実際にそれらと野菜を持ち比べていろいろと試し、体感を通して学んでいました。また、家でカレーを作ったことがあり、これぐらいの量でちょうどいいと思うとか、経験値をそこに盛り込んでいた子もいました。そして、はかりに乗せたら重さが大型画面に出てくるという、ICTをうまく活用したものを先生たちが準備しており、それを使って結果発表を行いました。1つ目の班が野菜に乗せたところぴったり1キログラムのところ針が止まりまして、私もびっくりしてしまい、「おお！」と声を出してしまいました。先生方も思わず拍手を送ったり、子どもたちも抱き合って「やった！」と歓声を上げていました。これが学ぶ喜びだなと思いました。こうした感動が、子どもにとっての学ぶ喜びにつながるのだと感じました。家庭での経験を利用してみたり、目の前にある重さを実際に比べてみたり、それから今まで習ったことをいかしたり、自分の総力を発揮して1キログラムってどれぐらいのものだろうと考えていました。既習事項をいかにつなげるかということと、友達といかにつながりながら勉強するかということが、あのような感動につながり、そしてその喜びが原動力になって、学力向上につながっていくのだらうと感じています。個に応じた丁寧な指導が大事であるとともに、子どもにこの学ぶ喜びとか励む楽しさとか、そういったことを体感させることが学力向上の根幹にあるということをお改めて感じたので、これからは先生方が校内研修や校内研究を通して、授業をより良くしていこうと取り組めるような条件整備を、教育委員会として行っていく必要があると思っています。

体力については、やはりコロナ禍における制限が大きかったと思います。コロナ禍の制限がなくなった今、いよいよ体力向上について本格的に取り組まなければならないと感じています。以上です

○市長 ありがとうございます。単純に学びを反復するというのではなく、授業や学校の生活自体が楽しいと思うこと、そして多くの友達や先生との対話を通じて、自分と違う考えを聞きながら学ぶということは、非常に大事なことであると考えます。昨年、コロナ禍における学校の状況や、タブレットや電子黒板の使用状況を確認するために学校に行っただけですが、ただ聞いてるだけ、想像するだけだと、このICT機器類を使うことで何か内に籠って学ぶ姿勢がついてしまうんじゃないかと心配をしていたのですが、そうではなくて、逆に先生方がそういった道具を非常にうまく使っていただいて、総合的に学ぶ場を教室内で作っている印象を受け、良い方向に学びが進んでいるなと思いました。

今回、学力及び体力の向上を協議題として設定したのは、コロナ禍が過ぎ、以前の生活に戻ってきた今だからこそ確認をしておく必要があると思ったからです。D層からC層へ上がる子が多くなるということは非常に大事ですし、また自分が好きな教科を積極的に学んで研究を重ねていくという、そういう姿勢がある子も多いと思いますので、そういった姿勢もよく評価していきたいと考えました。

○増淵委員 私も、平原委員がおっしゃられたことに関わり同感しております、少し視点を変えて話したいと思います。今回、学力と体力の2つについて取り上げられましたが、これらはやはり、学校教育の1丁目1番地のところだと思っています。やはり公立学校において、この小中学校の9年間で、学力と体力をどうやって一貫して育てていくのかということが非常に重要なことだと思っています。この全国学力・学習状況調査や体力調査の結果は、年によっても若干変動があったりしますので、あまり細かく上がった下がったというのはこだわらなくても良いのかなと思っていますが、このデータを見る限り、一定程度取り組んできた成果があるという評価が間違いなくできていると感じております。特に、先ほどから出てきていますが、AからDの層の中で、下の層が減ってきているという点については、学校教育プランにも掲げられている「誰一人取り残すことのない教育」が具体的に実現している、そういったことの現れではないかなと考えています。特に学校としては、全ての子どもたちが基礎的・基本的な内容を確実に習得できるようにするためにはどうしたらよいかを考える必要があり、そして学んだことをいかしていろいろなことに取り組んでいき、新たな発見をしたり、もしくは新たな価値を見出してみたり、もっと学んでみたいという思いを持ったり、そういった授業をどのように作っていくのかということは、まさに学校が、そして教育委員会と一緒に取り組んでいくべきことであると思っています。特に大切なことは、習得状況を確認できるような取組だと思っており、例えばこの資料の中にもルーブリックのことが出ていますが、自分は何ができたか、どこまでできたかということを確認できるような取組を通して、少しずつでも自信をつけていく、そんな取組が重要だと思っています。それから、なかなか習得ができない子もつまづきがちなところに立ち戻りながら内容を確認できるような環境、例えば学校から配付されたタブレットをはじめとするICTを使った取組など、授業改善を進めていく必要があるだろうと思います。そのベースにあるのは、一人ひとりの学び方の違いを許容していく、そういった雰囲気なのではないかと思っており、体験的、課題解決的な学習などを通じたクラスや学校全体の雰囲気づくりが重要になっ

てくると思います。ついては、公立学校として「誰一人取り残すことのない教育」、これを一層具体化していく必要があるだろうと思っています。また、これからのことで考えていることは、もっと学びたいという子どもを支援するためにはどうしたらよいかということであり、これは公立学校では少し弱い部分なのかもしれないと感じています。例えば、文学であったり、歴史であったり、科学であったり、コミュニケーションツールであったり、学校のカリキュラムを超えて学びたいという思いが出てくるのではないかと考えています。そういった学びをどうやって支えていくかということについて、これからさらに充実できるとよいと考えます。

それから体力についてですが、人生100年時代になりつつあるので、運動習慣を定着させるということ、それから様々なスポーツがある中で自分に合った運動に出会えるということが大切であると思います。また自身の健康管理がきちんと行える、そのような力を育成できるとよいと思っています。握力や長座体前屈など、一つ一つをどのようにして伸ばしていけばよいかは具体的には分かりませんが、体を動かすことを厭わない、そういった子どもたちを育成できればと考えます。

こういったことをできるようにするためには、学校の先生方が子どもたちの学力向上、体力向上のために注力できるような環境づくりがとても重要だと思っています。また、地域を基盤としながら、いつでも誰とでも、広く学べる環境を作っていくことが必要だと考えます。これらのことについては、教育委員会だけではなく、市長部局とも連携をしながら進めていく必要があるのではないかなと感じました。以上です。

○市長 ありがとうございます。中学校の英語を見ると、D層、C層の割合が東京都より低く、B層、A層の割合が高いことが分かります。もちろん学校における英語の授業が充実しているということだと思いますが、TOKYO GLOBAL GATEWAYに行った活動が、これから効果を上げてくるとすれば、非常にありがたいことです。皆さんも感じていると思いますが、最近、周囲には外国から来られている方々が多くいらっしゃると感じています。英語というのは、ただ机の上でカリカリと学ばばいいというわけではなくて、やはり使ってこそ習得できるものだと思います。先ほど、増淵委員がコミュニケーションツールというお話をされましたが、そういったものを駆使すれば、英語の学力というのはある程度高いレベルを望んでも到達できるのではないかと考えています。是非、学校でただ詰め込むということではなくて、子どもたちが学んだことをどんどん使うという、そういう場を設けていただきたいなと思いました。

○山下委員 私自身、子育てをした時に教育に関してあまり指導をしてこなかったのですが、子どもが中学校に入学して部活を始めて、そこで友達を作っていました。頭の良い子がいたり、そうでない子がいたり、その部活はすごいバランスの取れた環境だと印象を受けました。ライバルができたというわけではないですが、そこで仲間ができてから良い刺激を受けたのか、家でも勉強するようになってくれました。私の子どもは部活に入ったことがきっかけとなりましたが、そういった小中学校の仲間意識というものが子どもたちの力の底上げになってくるのではないかと感じております。

また、体力の件に関して、外で遊ぶ場所も限られてしまっているというお話が出ていましたが、たしかに私の子どもの頃と比べますと、十分に遊べる場所はかなり少ないのではないかと感じております。その中でも、水泳や体操など、運動に積極的に取り組んでいる子どももいますが、あまり取り組む機会の無い子どもも多くいると思います。オール府中というわけではないですが、そういった一体感があると、体力についても底上げにつながるのではないかと感じました。以上です。

○市長 委員の皆さんからご意見をいただいたので、私の率直な意見も申し上げたいと思います。学力についても体力についても、学校における先生方の努力があってこそ子どもの力の向上が成し遂げられるものであると、一義的にはそう思います。しかし、一般論でこのように申し上げるのは適切かどうか分かりませんが、最近、新聞などを見てみますと、教員を志望する方が非常に少ないということと、それから離職される方が多い印象を受けています。これは府中市だけのことではないですが、山下委員がオール府中とお話されましたが、府中市で教員になると楽しいとか、あるいは府中市の学校のようなところで教えてみたいとか、そういう意識というものが児童・生徒に芽生えてくれたら素晴らしいなと思いました。大きくなったら学校の先生になって、府中市で教えてみたいと思ってくれる、そういう良い循環ができたらと思います。これは、作戦を練ってもなかなか実現が難しいものなのかもしれませんが、子どもたちの心の育みというものも進めていけるといいなと感じました。

体力についてですが、人生100年時代と言われるほど健康長寿になっていて、どちらかというと高齢者の方が運動する習慣が身に付いている状況です。ハードなトレーニングをするというわけではなくて、週に1回運動しますかと聞いてみると、高齢者の方がすると答える割合が高いです。逆に、お子さんがいる30代くらいの親の方々のスポーツ実施率が一番低いという結果が出ることが多いです。そうすると、やはり子どもの中にも運動が得意な子と、そうでない子の二極化が生まれてくると思います。平均では体力が向上したように見えても、細かく分析すると偏りが強く出ているということは、あまり良いこととはいえません。そういったところにも、教育委員会とともにいつも見守りながら力を合わせていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後に、少し蛇足になってしましますが、大谷翔平選手からのグローブが小学校に届いたというニュースを見ました。子どもたちは大喜びだったようで、また初めてキャッチボールをしたという子どももいたようです。そういう大人の愛情というのも、すごく輝いているなと思いました。

様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。はじめに申し上げましたとおり、子どもたちが健全に育っていくためには、学力、そして体力はやはり必要なものとなっております。我々市長部局といたしましても、子どもたちのより一層の学習、運動への興味や関心を掻き立てるような取組が進められるよう努めてまいりたいと思います。

◎その他

○市長 最後に、次第の「2 その他」といたしまして、本日の協議題のほかにお気づきの点等、何かございましたらお願いいたします。

○日野委員 学校給食センター運営審議会委員もやらせてもらっていますので、ここで給食費の無償化についても意見を述べさせていただきます。給食費の無償化については、概ね賛同しておりますが、問題点もあるのではないかと考えております。今後、国や東京都による学費の無償化など、どの教育費についても異次元の無償化という対策が増えていく中、給食費を全く払わないというのは本当にいいのだろうか、自分で食べる分は少しくらい出すべきじゃないか、あるいは親が給食費を払うことで給食に対する意見を持つことができるのではないかと、そんな考えを持っております。給食費を無償化している自治体は全国にいくつもあり、また増えてきていますけども、インターネットで他自治体の給食を見てみたら、正直、府中市に比べてかなりレベルが低いという印象を受けました。無償化しているのだから文句を言える立場ではないという言い方をしても、それが通ってしまうような気がします。ある程度のお金を払うことで、PTAの親の方々の、こういうことをしてほしい、こういうこともしてほしいという意見をより吸い上げることができますし、意見を言いやすいということもあると思います。そのため全額でなくても、例えば千円くらいは出すべきじゃないかと考えております。物価高騰が続き、学校給食センターは非常に困っており、光熱費等の値上げにより現在の質を保つのに非常に苦勞しています。ある程度余裕を持たせるという形での給食費の自己負担、あるいはもう少しレベルの高い給食を食べさせてあげたいという気持ちを込めた自己負担も考える必要があるのではないのでしょうか。今度、審議会に出たときにPTAの方々にも、給食費をいくらか払うことでより美味しいものを子どもたちに食べさせてみたいですか、といった質問をしてみたいと考えております。以上です。

○市長 現代の物価高騰の状況下において、子育て家庭に大きな負担がかかっているということから、10月から3月までという期間での学校給食費の無償化を考えまして、教育長をはじめ多くの方々のご意見をいただきながら非常に悩みました。まさに日野委員がおっしゃられたように、保護者の負担がなくなることによって、保護者の意見を尊重する機会がなくなるということがあってはいけないこと、それから、財政的な事情から給食の質が落ちるといったことがあってはいけないということ、この2つのことに対しては特に悩みました。また、教育長とも給食費が無償化になったとしても、食育については引き続き充実させていかなければならないというお話もしました。給食費の無償化は、今後も継続的に出てくるであろう話題であり、保護者の方やその他の皆さんからいろいろな意見が出てくると思うので、しっかりとお伺いをして、慎重に進めていくことが重要だと思っています。

他にはいかがでしょうか。

○市長 他には無いようですので、以上で本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。最後に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。

○事務局 事務局から1点連絡がございます。次回の開催につきまして、時期といたしましては、3月の開催を予定してございます。時期が近くなりましたら、日程調整の連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。連絡は以上でございます。

○市長 本日の開催につきましては、大変ご多忙のところお時間をいただきまして、また熱心にご協議をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第2回府中市総合教育会議を終了させていただきます。

以上